

Title	中央史壇(第四卷、五卷)
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1923
Jtitle	史学 Vol.2, No.2 (1923. 2) ,p.132(292)- 132(292)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大正十一年度雑誌主要論文 書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19230200-0132

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

義隆は當代の第一人者たる神道の達人吉田兼右を周防に招き種々なる神道行事を授かり、又之に質問する所あつた。その問答の文書によれば、彼が顯幽兩界に可なりの深い智識を具備し、煩瑣なる事相の詮索にまで没頭してゐたことが知られる。

中央史壇 (第四卷、五卷)

奥州に残つた蝦夷の殘藁 (四、二、二七七)

金田 一京助

鎌倉期以降全く中央の史籍にその消息が絶えた蝦夷の話を様々な文献から拾ひ集め、往古の蝦夷が北海道アイヌと同一のものなることを立證してゐる。

紋章の形成 (四、二、二九六)

沼田 頼輔

紋章の分類 (四、三、三七九)

同

紋章の地方的分布 (五、三、三六四)

同

紋章學者たる氏の蘊蓄を示す有益な論文である。

幕府と佐藤信淵 (四、五、一二三九) 幸田 成友

佐藤信淵は講談所普請の件に坐して江戸拂を命ぜられてゐた。天保改革の際幕府は信淵の上書を嘉して之を徵さんとしたが、鳥居甲斐守が反對して沙汰止となつた。著者は市中取締類中の書類中の資料によつてその事情を詳述してゐる。

備慈多道留 (四、五、一二三七) 伊木 壽一

相良家所藏文書中 備慈多道留よりの書面がある。備慈多道留

とはホルトガル語の Visiador 即ちゼスイット教の一職名で特命監察官とも譯すべきものである。日本に渡來せる宣教師中 Visita tor たりしは Alexandro Valignani 一人であるから、此書狀は彼によつて天正八年有馬天草あたりから相良義陽にあてゝ出されたものであらう。

「衣川の役」の義經 (五、一、九二) 金田一京助

我國の義經蝦夷落傳説は蝦夷地に於ける義經傳説の輸入により寛文頃から起つた、蝦夷地に於ける義經傳説は古くに渡つた御曹司島渡傳説の痕跡と、地名俗解の要素とアイヌ神話の英雄を義經と同一視した要素との三要素から成立つてゐる。何れにしても民衆の思慕愛惜から生れた英雄不死傳説の一例である。

阿只拔都 (五、一、二〇七) 後藤 肅堂

高麗末期に於ける倭寇の大將少年阿只拔都の奮闘並びにその戦死を朝鮮文籍を通じて叙述してゐる。

親鸞聖人と教行信證 (五、六、八三一)

本多辰次郎

喜田博士の教行信證偽作説を駁し、我國撰述の佛書中の寇冕とも云ふべき本書が、博士の云ふ如く備はれ學者の手によつて成りしとは到底信ぜられず、博士の擧げた疑問は基礎極めて薄弱なることを逐一に論じてゐる。

東亞經濟研究 (第六卷)

禹貢製作の時代 (六、一、二) 内藤虎次郎